

## 都市と地方をつなぐ持続可能な医療体制の構築 —宮城県登米市における地域医療の取り組みとその成果—

医療法人社団やまと 理事長

やまと在宅診療所 院長 田上 佑輔



私は10年前、将来のキャリアを考えていた時に東日本大震災を経験しました。当時、東京大学病院で勤務していた私は、被災地のボランティアに参加し、その経験を通じて被災地や東北のために何ができるのかを考えるようになりました。特に医師不足や地域医療の課題については以前から関心を持っていましたが、それまでは東北との縁は全くありませんでした。縁はありませんでしたが、知れば好きになり、その後宮城県で人口あたり最も医師が少ない被災地である登米市を選んで診療所を開設しました。登米市は人口7万8千人、医師数は全国平均の半分程度であり高齢化が進む地域ですので、地域医療の改善に向けても積極的で私たちの活動も受け入れていただくことが出来たのではないかと考えています。私たちの「やまと在宅診療所」は地域の医師不足問題や街づくりに取り組みながら、地方と都市を結ぶ新たな働き方を提案し、多くの医師や地域住民の支援を受けながら10年間活動しています。

私たちの活動は、地方の医師不足問題に着目したことから始まります。私は震災後の地域とご縁がつながり地元の登米市民病院で日曜の

当直医を引き受けるなどの活動を通じて、地方の医療の課題や解決策を考え始めました。その後、私たちは登米市に「やまと在宅診療所」を開設し、地域の医師不足問題解決と街づくりに取り組んできました。

やまと在宅診療所は、医師が都市部と地方を行き来する循環型医療のスタイルを採用しています。この医師の新しい働き方により、私たちは都市部での専門的な診療や研究を行いながらも、地方で地域医療に貢献することが可能な働き方を構築していきました。現在、診療所は登米市を中心に拡大しており、地域の医師不足解消に向けた兆しが見え始めています。

また、やまと在宅診療所では地域との連携を重視し、教育や研究、事業創出などを通じた街づくりにも積極的に取り組んでいます。地域の役に立ちたいという思いから、地域のイベントや活動を支援し、地域の発展に寄与する取り組みを行い、訪問看護や居宅介護、訪問栄養指導、訪問リハビリテーションなど、地域のさまざまなニーズに応えるためのチーム形成に力を入れています。

地域連携の強化によって、医療サービスの質も向上し、医療提供範囲も広がりつつある中、この活動を通して、私の地域貢献に対する考えや思いも進化していきました。医療は単に施設や機関の一部に過ぎず、街づくりの一環であることを深く認識したのです。

地域の産業や観光の振興、地域住民のさまざまな困りごとの解決に取り組むことが、本当の街づくりにつながると信じています。街づくりを実現するには、医療の枠を超えて行政や企業と協力し、新たな取り組みを創造していくことが必要です。私たちは、医療の枠を超えた活動によって地域全体の発展に貢献する可能性を模索してきました。

私たちの活動を広く知ってもらうためには、情報発信も重要な活動の一つです。私は地元のFMラジオでパーソナリティも務め、予防医療や健康情報の発信を行っています。コロナ期間中は「登米・新型コロナ情報局」という特設番組を立ち上げ、COVID-19に関する情報提供を行いました。さらに、診療所の近くに「coFFee doctors」というカフェを開業し、医療相談や医療に関するイベントを開催しています。

また、Web版「coFFee doctors」では、地域で社会課題の解決に取り組む医師たちのインタビュー記事を発信しています。これらの活動によって、地域とのつながりを深め、新たな連携を生み出していきました。今後はさらにこれらの活動を通じて、社会課題に取り組む医師たちの姿を多くの人に知ってもらい、新たなつながりや協力関係が生まれることが期待されます。

医師の活躍が広く認められ、行政や企業からのサポートや協力が得られることは、地域の発展にとって重要な要素です。これによって医師の活躍の場が拡大し、地域において新たな仕事や雇用が生まれ、人々が地域に定着することが促進されます。全国的にも医師の活躍を応援する取り組みによって地域の発展が進む好循環の例が存在します。

私たちの活動は単に診療だけを行うのではなく、そのように行政と連携することによって地域課題の解決にも参加しています。実際に、私たちは2015年には登米市から行政アドバイザーに任命されました。地域での多職種連携を進め、顔が見える関係作りイベントや情報連携を行い、さらに2019年には登米市から医師不足や偏在解消に向けた業務委託を受けるなど様々な取り組みを行っています。

診療に関しても、やまと在宅診療所は開設当初から地域で必要とされる在宅医療に集中的に取り組んできました。在宅医療は、高齢化社会においてますます重要な役割を果たす医療の一環です。患者さんの生活全体を見つめ、向き合いながら、患者さんが最期まで幸せに生きられるようサポートすることが私たちの使命です。

私にとっても、患者さん一人ひとりの物語や人生を大切にし、その人らしさを尊重しながら医療を提供することにやりがいを感じています。在宅診療では、病気だけを見るのではなく、患者さんの話をじっくり聴きながら、患者さん自身の人生全体を含めて診察していくため、医療はあくまでも手段として考えることが多いです。このような視点を持つことは、患者さんの

人生を考えるだけでなく、私たち医療者自身も人生を考え直す機会が与えられます。



2021年震災10周年の年に放送されたNHK朝の連続ドラマ小説「おかえりモネ」では登米市や私たちの診療所やカフェがモデルになり、まさにこのように命の現場が人を成長させることも取り上げてくれました。「おかえりモネ」は宮城県・気仙沼沖の島で育った女の子が、震災時に被災地にいなかったことを引きずりながら、内陸の登米市で林業や山林ガイドの仕事に就くが、ある出会いをきっかけに気象予報士を目指し成長していく物語です。東京の気象予報会社で働きはじめた主人公は、天候次第で人の人生が大きく左右されることを痛感し、個性的な先輩や同僚に鍛えられながら、失敗と成功を繰り返し成長し最後は地元で貢献したいと気仙沼に戻ります。

そのドラマの登場人物に医師の菅波先生というキャラクターが登場します。東京と登米を行

き来しながら、地域の様々な人たちとの出会いがあり、自分に何ができるのかを模索し続ける姿は当院の医師たちにも重なる姿でした。ドラマでも様々な形で描写されていましたが、誰もが悩みを抱えて、誰もが自分の理想と現実の差に「痛み」を感じながら日常生活を粛々と生きていることを医療の現場だからこそ強く実感します。震災で家族を亡くした人も、震災時に被災地にいることができなかった人も、将来の夢がもてない人も、引きこもりで外に出れない人もいます。しかし、その痛みは当事者同士では解決できず、当事者以外の人たちとの関係性によって軽く感じたり、解放されたりすることがあることがドラマの中では強調されているような感じがします。そして、そのような人たちがいる所がその人の居場所になり、外に出たとしてもいずれは戻ってくることも良くわかります。医療者としても、地方と都市部を往来する立場としても、その当事者以外の人たちの役割として外部から持続的な関係性を維持する人の必要性を非常に感じます。患者さんにとっての医療者であったり、都市部にとっての地方の人であり、逆に地方にとっての都市部の人もその一例だと思います。その持続的な関係性の維持を私たちは「循環」という言葉を使って考えてきました。

このドラマに関わる上でも、私たちが共有していたテーマが「循環」です。このテーマには自然と生命の循環も含まれています。宮城の自然から、空と山と海が水を介してつながっているように、人々の生死と個人と地域につながりが存在します。私たちはその間を循環する存在

になることで、患者さんやご家族の痛みを和らげ、支える役割を果たすことができると感じています。そして、そのような存在であることで、私たち自身も成長していくことができるのです。被災地を舞台にした「おかえりモネ」というドラマは、私たちの活動の一端を反映しており、私たちの存在価値や使命を改めて実感させられる機会となりました。

私たちの活動はまだ始まったばかりであり、これからさらなる挑戦や成長が待っています。医師一人ひとりの能力や個性を活かしながら、地域の課題解決と地域医療の実践を通じて、患者さんの自分らしい生き方を医療の側面から支援すると同時に、地域全体の環境や制度を整え、人々が自分の生き方を全うできる場所を作りたいと考えています。

これを言葉にしたものが私たちのビジョンです。ですので最後に紹介させていただきます。

「わたしは、こう生きたい」を実現する。

「最期まで、自分の願う人生を生きたい」

その想いを、真摯に受け止める人がいること。

寄り添い、出来ることはないかと行動し続ける人がいること。

ひとりの人間として向き合い、その実現を心から願う人がいること。

やまとは、そんな心を満たす医療を、あらゆる地域に届けたい。

地域に生きる人と、そこに寄り添うわたしたちの両方が、自分らしく生きられる関係を、医療を通じて実現したい。

やまとは、関係するあらゆる人の「わたしは、こう生きたい」の実現を目指します。

持続可能とは、人が循環しながら戻る場所・コミュニティがあることだと考えています。戻る場所とは、他者の生き方「わたしは、こう生きたい」を応援してくれる所です。個人と家族、家族と地域、患者さんと医療機関、地方と都市、生と死のように二つの概念を循環できる仕組みが、私たちの活動の根源にあるのかもしれませんが。

私たちの取り組みが多くの人々に希望と活力を与え、持続可能な医療体制の構築に向けた新たな一歩となることを信じています。地域との連携を深め、地域の課題解決に取り組みながら、私たちは医療と街づくりの一体化を実現し、より良い未来を築いていく決意です。